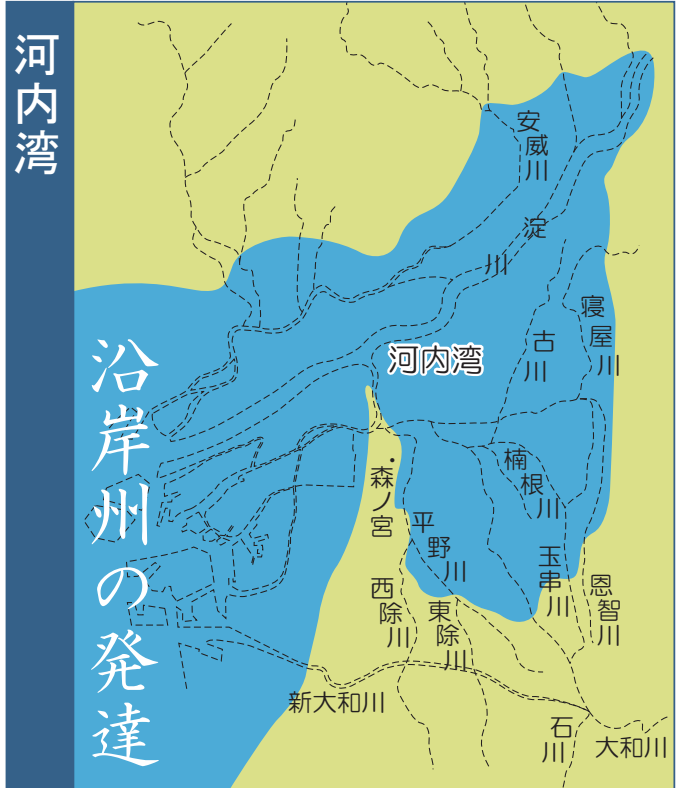




# 『森小路遺跡』から旭区の "弥生時代"と"古代大阪"を知る!

## 大阪の地形の移り変わり

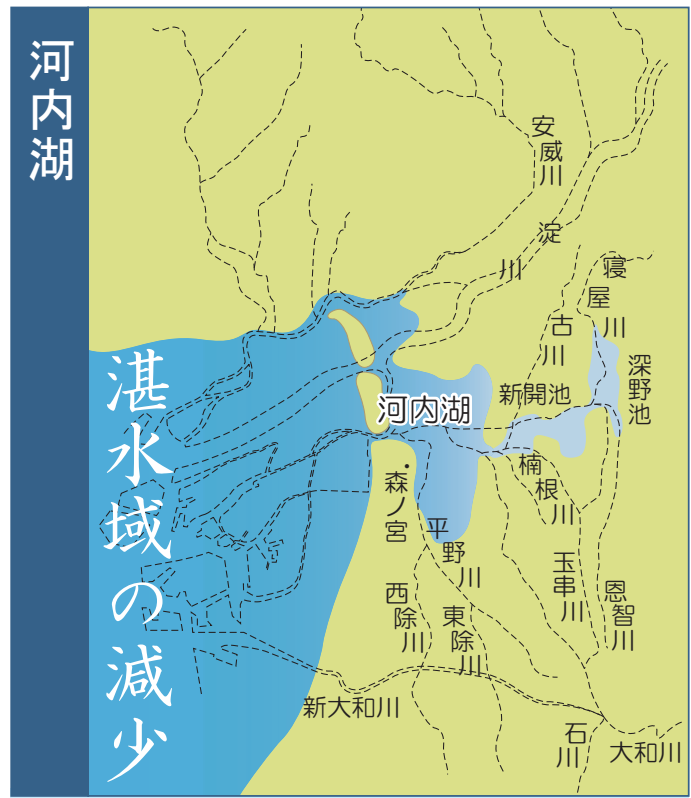
大阪は、十万年以上昔にナウマン象がいた説もある。数万年前、今の天王寺区を含む上町台地が、洪積層の岩層地帯で大入江の大阪湾に突き出していた頃も、この後の無土器時代(交野市神宮寺や藤井寺市国府遺跡から石器出土)も、五千数百年前の縄文時代(四天王寺や西日本一の貝塚・森之宮遺跡から土器出土)前期も、旭区は“河内湾”と呼ばれる大阪湾とつながる海の中にあった。大阪は四千年前～三千年前に上町台地の先端から砂州がのび、淀川から運ばれた土砂により塩分が減じ“河内潟”そして“河内湖”へと順に陸地化していった。



河内湾の時代



河内潟の時代



河内湖の時代

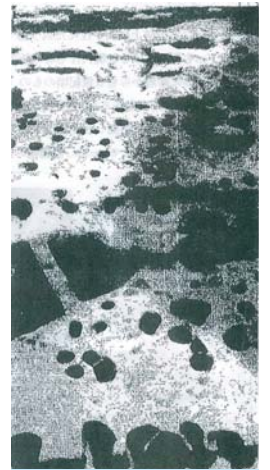
## 森小路遺跡から出土の

## 穴を開けてから捨てていたとみられる土器 (資料: (財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所)



## 旭区最初の住人たちの“ムラ”の跡

約二千年前の**弥生時代**に中国から朝鮮半島を經由して入ってきた**農耕文化**により、人間は山地の狩猟から農耕の低地へと移り、潟から湖化の“河内湖”や淀川に近く**水利**の良い、自然堤防上の**森小路**に**人が住み始め**、ムラができたと考えられている。近くには、東淀川区の崇禅寺遺跡、東大阪の高井田遺跡、隣接守口市の八雲遺跡などがある。東住吉区の桑津遺跡、平野区の瓜破遺跡、南河内の貴志遺跡からも農耕遺跡が出ている。



■ムラの跡

## 弥生時代の主な出土品 (資料: (財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所)



穂摘

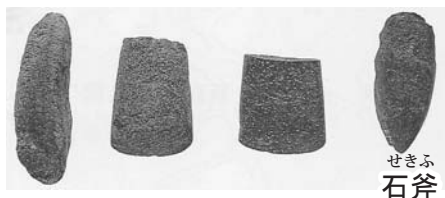
**弥生時代**は日本列島内で、**稲作**農耕が行われ、米を主食にした最初の時代でした。**森小路遺跡**でもこの地で稲作が行われたことを示す石包丁(稲の穂を摘み取る石器)や木製のくわ 鋤・うす 臼などの農具をはじめ、もみあと 稲跡の見られる土器などが出土しています。又、弥生時代は戦争があったといわれていて森小路遺跡でも、当時武器とみられる石鋸や石槍をはじめ、戦争か祭りに使用したと思われる**磨製の石戈**(刃の先状)も出土している。モニュメント住宅の**柱穴跡**、**小貝塚**に淡海水の**シジミ**が多く、**ハマグリ**の貝殻も出土。**土器・石器・木器**などの生活用品のほか、ムラはずれには**甕**も出土し、方形周溝墓なども推測されている。水田跡は特定されていないが、ムラ周辺部の低湿地と考えられている。



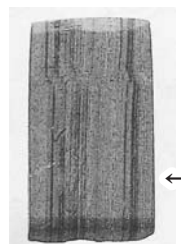
石包丁



木製容器



せきふ 石斧



←小型 せきふ 石斧